

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果・分析について

令和6年9月 下呂市教育委員会

令和6年4月に小学校6年生と中学校3年生を対象に全国学力・学習状況調査が行われました。この調査の目的は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、今後の教育活動に役立てていくことです。

下呂市教育委員会では、調査結果から、下呂市の子どもたちのよさや課題を明確にし、子どもたちに確かな学力を育むことを目指します。

なお、この調査により測定できるのは、学力のうち、特定の一部であること、学校における教育活動の側面であることなどをご理解ください。

1 教科に関する調査（教科、領域別）

【小学校】6年生

教科	全体の傾向	傾向の詳細
国語	全国平均正答率を上回っています。「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」とも身につけています。	「書くこと」について、確かな学力が定着しています。特に記述式の出題の正答率が高いです。文中における主語と述語の関係をとらえることについては、やや課題が見られますので、文の構成について理解を深めるとよいです。
算数	全国平均正答率を上回っています。「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力」とも身につけています。	「図形」「変化と関係」「データの活用」の領域で全国平均正答率を上回っています。「数と計算」の領域の除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係についてさらに理解できるようになるとよいです。

【中学校】3年生

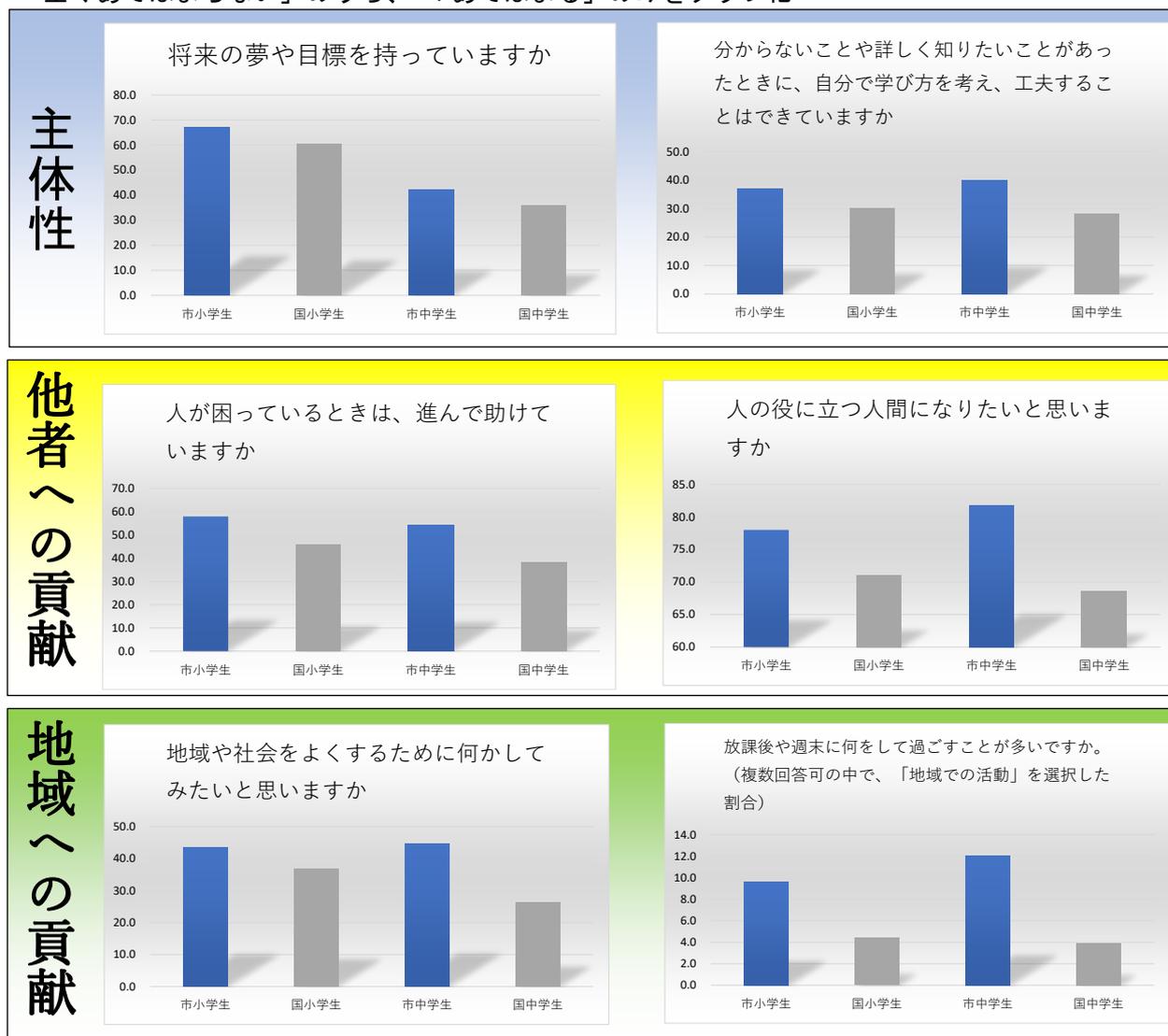
教科	全体の傾向	傾向の詳細
国語	全国平均正答率を大きく上回っています。「内容別」・「観点別」・「問題形式の傾向」とも全国平均を大きく上回っています。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」について、確かな学力が定着しています。特に「書くこと」について、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができています。
数学	全国正答率を上回っています。「内容別」・「観点別」・「問題形式の傾向」とも全国平均を上回っています。	「関数」の領域については、式とグラフの特徴を関連付けて理解できています。「図形」の領域については、事象を核の大きさに着目して観察し、問題解決の課程や結果を振り返り、新たな性質を見出していけるとよいです。

2 教科に関する調査（問題別）

成果のみられた問題の共通点	課題のみられた共通点
<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校ともに無回答率が低く、粘り強く問題に取り組もうとしていることが窺えます。 ・国語、算数（数学）ともに、記述式の出題についての正答率が高く、これも粘り強く問題に取り組もうとしている結果と言えます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や意図に応じて、集めた資料を分類したり関連付けたりして、自分の考えを分かりやすく表現したりすることに改善の余地があります。

3 質問紙からみる下呂市の小中学生の傾向

※質問紙の選択肢「1 あてはまる」「2 どちらかといえば、あてはまる」「3 あてはまらない」「4 全くあてはまらない」のうち、「1 あてはまる」のみをグラフ化



上記の結果から、下呂市の小中学生は、自分の目標や課題に向かって学び続けようとしていくことができている。また、他者や地域にまでに関心を広げ、自他ともによりよく成長しようとする豊かな心を持っていることが分かります。特に、地域への活動については、全国平均と比べてとても高いことから、地域の一員としての自覚と誇りをもって生活できていることが分かります。

下呂市では、今後も学校、家庭、地域が連携し、子どもたちがふるさとの風を感じ、たくましく生き抜いていけるような教育をサポートしていきます。